

統一研における質疑について

○二（２）生徒の実態の中で、「教員が生徒に力がついていると感じ、生徒に実感がわかない」とあるが、生徒に力がついている根拠はあるのか。教師が授業を工夫して生徒に力がついていると勘違いしているだけで、本当は生徒は力がついておらず、実感がわいていないという可能性は考えられないか。

・ご質問ありがとうございます。SSHのアンケートは、すべての教科の教員が回答したもので、本当に生徒に力がついているという明確な根拠は確認できていません。ご指摘のとおり教師の自己満足である可能性も否定できません。

自分自身の授業に関して言えば、令和２年度末（生徒は１年次終了時）の時点で、生徒に力がついたかどうかは、授業中の生徒の様子を観察して判断しました。例えば、手がかかりになる言葉に記号を入れたり、線を引いたりしながら、本文を読む習慣ができてきたことや、発問に対して本文中の言葉に着目して適切な箇所を抜き出したりつないだりして答えられるようになってきたことを根拠としています。

○資料④⑤の「思考力・判断力・表現力」のルーブリックは自己評価が難しいのではないか。要約が苦手な生徒はそもそもこれらの評価項目の差を理解できないのではないか。

・ご質問ありがとうございます。ご指摘のとおりです。実践Ⅰの時に「思考力・判断力・表現力」を自己評価させましたが、生徒が評価すべき事柄を理解できず、正確な評価につながりませんでした。そこで、実践Ⅱからは、この「思考力・判断力・表現力」の項目は、「振り返りワークシート」の記述をもとに、教員が評価することにしました。ただ、ゆくゆくは自己評価できるようになってほしいと思い、うまく書けている生徒のものをプリントにまとめて紹介することで、規準となるようにしました。生徒にプリントを返却する際、「こういう内容が書けていたら評価３になる」「ここが足りないので評価は２である」ということを具体的に説明するようにしています。